

球技の戦術の体系化に関する一試論

稲垣 安二*

(平成 3 年 1 月 7 日受付)

A Study on Systematization of Tactics of Ball Games

Yasuji INAGAKI

I. はじめに

近年、わが国においては、球技は多くの青少年や成人の参加する教育活動であるとともに、社会活動の対象になっている。然もこの球技は、競技スポーツとして実践する場合でも大衆化スポーツとして実践する場合でも、戦術を視点にして計画され実践されている。このようなことから今日の球技は、漸次戦術を重視する競技スポーツへ傾斜しているように考えられる。そこで小論は、競技スポーツとしての球技を対象にしている。

競技スポーツとしての球技について、戦術の系統（体系的）的な研究は、これまで、日本体育学会大会の発表を初めこれに関連のある学会等の発表をみても、筆者らを除いてほとんどみとめられない。少しでも戦術にかかわりのある研究をあげると、球技のゲーム結果の分析、球技の特定な技術、戦術行動の分析及び調査等である。

筆者は、これまで競技スポーツとしての球技の戦術の包括的、科学的研究に従事し、それらの成果については日本体育大学紀要（以下紀要と略称）、日本体育学会大会及び著書等に発表してきた。紀要編集委員会では、たまたま紀要第 20 巻第 2 号を記念号として刊行することを決定され、それに伴って従来からの発表論文の他、依頼論文も掲載することになり、筆者もその依頼を受けたので、これまで紀要に発表した戦術にかかわる二十数編の小論から、球技の戦術の体系化に直接かわる若干の小論について、あらためて見直し取捨選択し、必要なものには補足したり、またその後の研究より得た知見を加え、更に諸外国の戦術にかかわる研究も交えながら、「球技の戦術の体系化に関する一試論」として発表することにした。したがって、ここに論述する内容には、筆者がこれまで紀要に発表した内容も少なからずあることを予めお断りする。

小論は、既述のように球技を競技スポーツの一つとしてとらえ、球技の概念、球技の戦術の概念を一層明確にし、それに基づく球技の戦術行動の構成要素、球技の一般戦術と特殊戦術の概念、対象ならびに関連性、更にバスケットボールとバレーボールの特殊戦術体系の構築ならびにそれらの一般化を志向し、両特殊戦術体系の関連性を追求している。これらのことは球技運動学就中球技戦術論の体系化の一助になることと確信している。

II. 球技の戦術

1. 競技スポーツと球技

(1) 現代のスポーツ活動

一般にわが国では、スポーツ活動は、それを行なう人の目標や態度によって、大衆化スポーツ（または大衆化スポーツ活動）と競技スポーツに分類されている。このなか競技スポーツについてスティラー（Günther Stiehler）は、「スポーツにおける遊戯とは全く性格を異にした、いわゆるスポーツ活動のなかにおける特殊な活動として、これをスポーツ競争と呼んでいる¹⁾。また、スポーツ活動は、運動技術、戦術、体力等の向上を追求するのでこれらの活動の最も顕著な競技スポーツは、現代においては本質的なスポーツ活動としてとらえられる。

このような競技スポーツは、「激しい競争形態のなかで相手と競技力、記録の向上や勝利の獲得を志向する活動と、そのような競争行動を身心の最高の状態で発揮できるように、平素から身体的諸力、運動技術、戦術ならびに戦術行動（いずれも後述）を最高の水準に準備（練習等）する活動の 2 つをあげることができる²⁾。

(2) 競技スポーツの一般目的と特殊目標

競技スポーツでは、競技者が競技に参加し勝利を志向することを共通の目的としている。したがって競技者が

* 運動方法（バスケットボール）

共通に志向する目的（勝利）は、競技スポーツの一般目的（仮称）ということができる。また、競技者が競技に参加することは、競技スポーツの一般目的のもとに合目的、経済的な行動によって、たとえば球技の各種目では、得点という数えられる成果を、陸上競技、水泳、スキー、スケート等では、測定できる記録の向上を、体操競技、フィギュアスケート、武道等では、演技の出来ばえをそれぞれ追求することを目標にしている。したがってこれらの目標は、競技スポーツの特殊目標（仮称）といえよう。

競技スポーツの一般目的と特殊目標の関連性をみると、競技者の追求する特殊目標は競技者の志向する一般目的の手段になっている。したがって競技者は、一般目的を志向する前に特殊目標を追求することが前提になる。これらの関連性を明確にとらえて実践することが、競技スポーツの適切な発展のために非常に重要なことになる。

（3）競技スポーツとしての球技

競技スポーツの一つの領域に球技がある。現代の球技は、戦術を視点として計画され実践されている。そして、スポーツ運動学的な視点における球技の研究の固有の領域は、集団戦術であると考えられる。集団戦術は後述のようにグループ戦術とチーム戦術によって構成され、グループ戦術は個人戦術より成っている。然し、球技の戦術や集団戦術を明確にとらえるには、球技とは何かということから系統的に研究することが必要になる。

2. 球技の戦術

1) 球技の概念

球技とは何か、すなわち球技の概念をとらえるためには、その1つの方法として球技の基本的な特性をとらえ、それより球技の概念を導き出すことである。

（1）球技の基本的な特性

球技の基本的な特性は、たとえば関、高橋等による、①ボール等の係争物を媒介してプレーする、②個人的、チーム的対立競争である、③得点を追求する³⁾等がみられるが、ここでは戦術研究の視点から前述も含め対峙的な競争形態を視点にした球技の基本的な特性について、G. スティラーの述べる特性の一部を加え筆者なりに論述する³⁾。

① 球技は公的に成文化されたルールに基づいて、「球体や球状またはこれに代る物体を係争物にしてプレーされる」

② 球技の競争目標は、測定可能な記録や出来ばえで

はなく、「相手にまさる得点を1つの数えられる成果として獲得することである」

③ 球技は、「個人的競争またチーム的（または集団的）競争という対峙的な競争形態のなかでプレーされる」

④ 球技の競争行動は、「攻撃や防御の原則や規則に基づいて、意識的に行なわれる社会化された行動であり、予定されない不確定な競争行動ではない」

⑤ 球技には、攻撃と防御がそれぞれ「予測と先取に基づいて、攻撃と防御、防御と攻撃の2面的な機能をもつ競争行動が多い」

（2）球技の概念

球技の基本的な特性に基づいて球技の概念をとらえると、「球技は個人または集団がチームをつくり攻撃と防御に対峙し、成文化された公的なルールにより、球体やこれに代る物体を係争物にして、攻撃や防御が予測と先取に基づき原則化、規則化された行動を基底にした攻撃と防御の2面的な機能を発揮し、得点を競う活動である」と定義される。

2) 球技の戦術等と戦術行動

（1）球技の戦術等の概念

筆者は、H. ホフマン (Hofman, H) や G. スティラーの戦法の見解を引用し、戦術は戦略、作戦とともに戦法を構成する一つの要素である⁴⁾ととらえている。そして戦法の構成要素のなか特に戦略と戦術は、古代ギリシャまでさかのぼりとらえられるが、作戦は、戦法の第3の構成要素として19世紀後半になって加えられた⁴⁾。そこで球技の戦術の論述には戦略、作戦も加え、更に戦略、戦術、作戦相互の関連性についても論述の必要がある。

① 球技の戦略

戦略は戦法を構成する最も広範囲な要素であるが、それには狭義と広義の戦略がみられる⁵⁾。狭義の戦略は、当該種目の国際大会、全国大会等で優勝を志向し、コーチの選定、選手の発掘、練習計画とその内容、経済的な基盤の確立等の諸々の方法、手段による選手強化や各大会の試合で勝利を獲得するための計画と指導に関する理論である。広義の戦略は、一国もしくは大学の狭義の戦略とともに政治、外交、経済等の運用の方策である。これは一国家が競技スポーツを政治、外交等の手段に利用し諸外国との友好親善を高める方策等に関することである。また同じように一大学が全国大会等で優勝することによって、その大学の名声を高め、大学の発展を図るに必要な長期にわたる各運動部選手の強化にかかわる諸々

の運用の方策等であり、それらは国家戦略、大学戦略(仮称)といわれる⁵⁾。

② 球技の戦術

戦術の概念は、国内的にも国際的にも種々みられる。特に戦術が理論であるか実践や活動であるかについても明確な結論がでていない。現在国際的に代表する概念の一つに、ツェットリン(Zetlin)の述べる「一般的に勝利を得るための目的にかなった行動¹⁾」がみられる。これは、戦術を実戦や活動としてとらえる立場である。他の一つは、G. スティラーの述べる「すべての球技種目にわたって一般妥当的であるような競争指揮の原理、ルールおよび概念に関する理論¹⁾」がみられる。これを端的に言えば、競争指揮に関する理論である。これは戦術を理論としてとらえる立場である。そして G. スティラーは戦術の実践、実際を戦術行動としてとらえている¹⁾。

戦術は理論か実戦かいずれに妥当性があるかについては、筆者の研究が浅く容易に言明できないが、もし戦術を実戦や活動としてとらえると、既に古代ギリシャの決斗のなかにもみられ、それに対して戦術を理論としてとらえると、19世紀後半以降競技スポーツを戦術の視点で計画し実践するなかにもみられる⁴⁾。

今日、わが国を初め諸外国においては競技スポーツや球技の戦術の体系の確立はみとめられないが、戦術を理論の対象としてとらえ戦術的な視点で競技スポーツを包括的、科学的に研究することは、競技スポーツやその戦術の発展のためにも不可欠の要素であると思われるので、筆者は、戦術を競技スポーツの競争の指揮に関する理論、その実践を戦術行動とする G. スティラーの見解を支持する。そして戦術については一般に当面の相手との競争にかかわるので、戦術の概念は、個人やチームの対敵行動(または対峙行動)における競争指揮(または競争指導)の仕方や、その場で最もよく適合する競争手段(攻撃、防御の方法)にかかわる理論である⁵⁾としてとらえている。

③ 球技の作戦

G. スティラーは、作戦は戦略に戦術を結びつけることであると述べている。これに基づくと、全国大会等における優勝は、大会期間中の各試合において戦術行動を含んだ作戦によって達成できることになる。つまり球技の作戦は、各試合で勝利を達成するという戦略に戦術を結びつける⁴⁾ことになる。したがって作戦には戦術にみられる戦術行動のような実態はとらえられない。筆者は球技の作戦とは、1チームが各試合において勝利の達成を志向し、攻撃、防御の戦術行動を意図的、計画的に展

開させる仕方、また進め方である⁵⁾ととらえている。そしてこのことは戦略に戦術を結びつける機能になる。

球技の作戦について補足すると、前述の試合において勝利の達成を志向し、戦術行動を計画的等に展開させる仕方というとらえ方は、作戦が戦術行動の展開の方向づけや介添役の役割りを演じていると考えられる。したがって作戦が戦術を含むということは、作戦が戦術行動を掌握し戦術行動の展開の方向づけや仕方を計画、指導する機能をもつ⁵⁾ことで、戦術は作戦より下位に位置づくことになる。

④ 球技の戦法

班技の戦法の概念を筆者なりにまとめると、諸外国との友好親善等を高めるために球技種目を政治、外交、等の手段に用いる方策、全国大会等で優勝等を達成しそれによって大学の名声を高め発展を図るための選手強化にかかわる諸々の有効適切な運用の方策、それらに基づいて当該年度の全国大会等で優勝等を達成するための計画、指導に関する理論、これらの目標の実現に向って諸々の戦術の効果的な実現を助け、戦略に結びつける作戦に関する理論、並びに各試合において諸々の競争指揮の仕方やその場で最も友好に適合する競争手段に関する理論である⁵⁾。

(2) 球技の戦略と戦術等の関連性

① 球技の戦略と戦術の関連性

球技の戦略には狭義と広義の戦略がみられるので、二つの戦略と戦術の関連性をとらえることになる。しかしここではそれらの関連性の第一段階として戦術と直接に関連性がみられるように思われる狭義の戦略と戦術の関連性についてみることにする。

球技の狭義の戦略と戦術とは、本来異なるものである。しかし球技の戦略と戦術を機能的にみると相互に一体化がみられ、戦略より戦術へ一貫性のある試行がみとめられる。そのなかで、戦略は戦略目標としてとらえられ戦術は、戦略目標の達成に必要な手段としてとらえられる。したがって戦略は戦術よりも上位におかれ優越している。このようなことから高度な戦術や戦術行動がなければ優れた戦略は生かされないし、逆にいかに卓越した戦術や戦術行動でも、優れた戦略が裏付けられない場合には、効果的な試行は不可能になろう⁵⁾。

② 球技の戦略、戦術と作戦の関連性

作戦は、戦略に戦術を結びつける機能としてとらえられる。すなわち作戦の概念には、特に戦略と戦術の関連性をもたせた記述が必要になる。このことについては作戦の概念のなかに論述しているので省略する。

(3) 球技における戦術行動の構成要素

球技の戦術の実践である戦術行動は、それが身体的接触を伴う、伴わない対峙的な競争形態をとる場合においても、競技者は、競争目標を実現するために競技者の身体的諸力、運動技術、戦術等を利用している。

G. スティラーは、戦術行動の構成要素（または構成内容）として、技術、コンディション、知能、反射能力、集団意識¹⁾の五つをあげている。氏の戦術行動の構成要素を考察してみるに、まず技術は球技の試合を対象にするので運動技術にあらためたい。また氏の述べる反射能力は、神経の錐体外路による無意識的な運動能力であり、この能力に優れることは競技者として必要なことであるが、しかしこの能力は、人間の素質によるところが多く練習やトレーニングによって容易に向上しないので、競技者としてはむしろ錐体路による随意運動の能力、すなわち、選択反応能力に優れることが必要になる。したがって反射能力を選択反応能力にあらためたい²⁾。そして G. スティラーの述べるコンディション、知能、選択反応能力を身心一如の立場から包括して、これを身体的諸力としてとらえ、球技の戦術行動の構成要素を運動技術、身体的諸力及び集団意識の三つにまとめ³⁾、氏の見解の一部を引用しながら筆者の見解を述べる。

① 運動技術

運動技術は、戦術行動の最も基本的な構成要素である⁴⁾。競技者は、熟練性に富んだ戦術行動が可能になるように高度な運動技術を目的志向的に技能化することが必要になる。

② 身体的諸力

一般に身体的諸力といえば種々な能力が含まれようが、ここでは既述のコンディション、知能（知力）、選択反応能力の三つについて論述する。

a. コンディション

コンディションは、調和的に発達した身体に宿る⁵⁾。したがって、競争をやりぬくには、それに必要な体力と精神力が重要になる。身体と精神のコンディションは、いかなる場合でも統一した状態とみなされ、人体の生理学的な経過に基づく過程以上のものとみなされている⁶⁾が、球技の試合では、何時でも身心のコンディションが最高に維持され、戦術行動が目的志向的に実践できることが必要である。

b. 知能（知力）

知能（知力）は、獲得した知恵（知識）を効果的に働かす能力であるので、戦術行動を行うための本質的な要

素になる。すなわち、競技スポーツの社会における位置づけ、競技論や戦術論を熟知し、それらに基づいて斗争、激しい肉体活動を要請される球技の試合を高度な精神力で促進させる。特に G. スティラーは、「当該の競争形態の戦術に関する基本的な認識、とりわけ戦術の思考力、すなわち各々の戦術を連結して一連の過程として認識したり、組み合わせたり、更に新たな戦術を創り出す能力は知能に入る⁷⁾」と述べている。

c. 選択反応能力

球技の競争場面では、競技者が可変的な瞬時の競争状態において、競技者の反射能力によって当面の課題を解決することもみられるが、その多くは、競技者が瞬時の競争状態を知覚し、戦術行動として体得した動きの原則や規則⁸⁾から判断し行動するので、高度な選択反応能力が必要になる。したがって競技者としては、特定な競争状態において所定の動きの原則や規則に基づく選択反応能力が高度化するに伴い、特定の競争状態における競技者の選択反応行動が条件づけられ、合目的な動作が完成される（動的常同型）ことが必要になる⁹⁾。

④ 集団意識

競技者は、家庭、学校、職場、地域社会、都道府県及び国という集団的基盤や背景のもとで競技に専念している。特に競技者の集団意識の発揚は、集団的な戦術行動の高度な実践に必要な要素になっている。競技者が集団の一員として高度な集団意識をもち、集団の共通な目標の達成に積極的に行動することは優れた成果を達成する基となる。

3. 球技の一般戦術と特殊戦術

1) 球技の一般戦術と特殊戦術の定義

A. 球技の一般戦術の定義

G. スティラーの球技の一般戦術の定義ならびにその考察⁴⁾から、球技の一般戦術を次のように定義する。

球技の一般戦術は、すべての球技における競争指揮の一般妥当的な原理、ルール、方法ならびに概念等（傍点のついた用語は筆者が付加）に関する理論である。

B. 球技の特殊戦術の定義

球技の特殊戦術は、個別球技種目における競争指揮に関する種々な理論⁴⁾である。

2) 球技の一般戦術と特殊戦術の対象

A. 球技の一般戦術の対象

G. スティラーのあげる8項目⁴⁾に筆者のあげる2項目⁷⁾を加え、氏のあげる若干の項目については慣用的な邦語に修正等を行い、体育における純粋な理論に関する

対象（または領域）と実践の理論に関する対象（または領域）のあることに着目し、一般戦術の対象を純粋な理論に関する対象と実践の理論に関する対象という分類基準に基づいて以下のように分類する。

(A) 純粋な理論に関する対象⁷⁾

- ① 球技の戦術の歴史の変遷（発達）
- ② 球技の実際における戦術の基礎概念

戦術の概念、戦術行動の概念、戦術の要素、手段及び規則等の概念、システム、フォーメーション、オフENS等

- ③ 球技の戦術の構成要素と要素間の関連性

(B) 実践の理論に関する対象⁷⁾

- ① 球技の実施過程（攻撃、防御の展開）にみられる戦術行動の把握

フィルムをとったり記録したりして把握

- ② 戦術のトレーニング

a. 戦術構想能力

特定な集団戦術と他の集団戦術を結びつけたりする能力、また新しい集団戦術の考案の能力

b. 戦術行動の理論的な訓練

- ③ 戦術の計画
- ④ コーチがゲームの戦術行動に及ぼす影響
- ⑤ 球技の戦術の実際に影響を及ぼす要因。

これには競技場の広さ、競技人員、用具、気象条件及び試合時刻等

- ⑥ 球技の特殊戦術の高度化に共通し基礎となる一般化された「動きのカテゴリー」

これには動きの予測と先取、動きの3原則等13項目があげられる⁸⁾。

- ⑦ 球技の一般化された攻撃、防御の基本的な方法と一般化された攻撃、防御の基本的な展開

B. 球技の特殊戦術の対象

i. 個人的なものあるいは個人戦術⁴⁾

ii. 集団戦術⁴⁾

(i) グループ戦術、(ii) チーム戦術

C. 球技の特殊戦術と特定な特殊戦術

既述のように特殊戦術とは、球技の各種目の戦術のことで、個人戦術、グループ戦術、チーム戦術のことになるが、更にこれら三つの戦術を含めた総体の戦術も特殊戦術になる。すなわち、特殊戦術の対象が実際には広範囲にわたることから、特殊戦術という用語の使用に混乱をまねくことになるので、特殊戦術とは、個人、グループ、チームのそれぞれの戦術の総体としてとらえ、個人戦術、グループ戦術、チーム戦術のそれぞれについては

「特定な特殊戦術¹⁰⁾」と仮称する。したがって、バスケットボールのカットイン、スクリーンならびにエイトフィガー等はすべて特定な特殊戦術になろう。

3) 球技の一般戦術と特殊戦術の関連性

G. スティラーは、「球技の戦術は、球技の実際のなかで得られた認識を一般化することから発展したものである⁴⁾」。さらに、「個別球技の行動の認識とともに相互交流の比較による認識も発展してきた⁴⁾」と述べているが、球技の戦術は、球技の各種目の戦術の実際から出発し、個別球技それ自体ならびに個別球技相互の比較より得た認識（後者は主に各種目間の特殊性）、またすべての球技に共通にとらえられる実践を高める種々な対象として、戦術の計画、戦術のトレーニング等を理論づけ、そして戦術の歴史的研究や戦術の諸概念等の研究へと発展し球技の一般戦術や特殊戦術が明らかにされたことと推察できる。

ところで、球技の一般戦術の対象には、純粋な理論に関する対象と実践の理論に関する対象の二つがみられるが、これらの関連性は戦術の発展の歴史的な経過から、実践の理論に関する対象より純粋な理論に関する対象へ発展することになる。したがって、球技の一般戦術と特殊戦術の関連性については、第一段階として一般戦術の対象のなか特殊戦術とのかかわりの深い実践の理論に関する対象と特殊戦術の関連性をみることになる。

実践の理論に関する対象には種々あるが、そのなかで戦術の実践にかかわる主要な2項目すなわち、動きのカテゴリーと一般化される攻撃（防御）の基本的な方法ならびに基本的な方法の展開（以下これを2項目の特定対象と略称）について特殊戦術との関連性をみることにする。ただし、一般化される攻撃の基本的な方法ならびに基本的な方法の展開は、基本的な方法・展開として1項目の特定対象とする。

2項目の特定対象は、各種目の特殊戦術に共通し、各種目の特殊戦術の高度化を表わす一般化された内容であるので、2項目の特定対象と各種目の特殊戦術の関連性を簡単な座標でとらえると、2項目の特定対象のなか動きのカテゴリーは座標の縦軸に、一般化される攻撃の基本的な方法・展開は座標の横軸にして、各種目の特殊戦術の高度化の程度は、両座標軸に対する対角線上の交点に求められる⁷⁾。したがって、2項目の特定対象は車の両輪の機能をもち特殊戦術の高度化に寄与しているといえることができる。

ところで、実践の理論に関する2項目の特定対象と特殊戦術の関連性をみるに、たとえばその一つとして一般

化された攻撃の基本的な方法・展開は、球技の各種目にみられる攻撃の方法を他の種目の攻撃の方法と比較し、類似性をとらえ攻撃の基本的な方法・展開として2項目の特定対象の一つの領域に位置づけている。したがってそれらは、各種目の特殊戦術を比較し類似性をとらえ一般化して、それを一般戦術のなかの実践の理論に関する対象へ移行したという関連性になる。そして一般化された一般戦術は、再び特殊戦術の試行において基礎、土台となる。このような相互の循環の関連性が2項目の特定対象と特殊戦術の関連のなかにみられる。

4. 球技の戦術体系

球技の戦術体系とは、球技の各種目に共通してとらえられる戦術体系のことである。また各種目の戦術体系は特殊戦術体系ということになる。そこでここでは球技の代表的な種目としてバスケットボールとバレーボールの両特殊戦術体系のなか、紙面の都合より両種目の攻撃の特殊戦術体系について論述する。

1) バスケットボールの特殊戦術体系

(1) バスケットボールの特殊戦術体系のとりえ方

① 本質的な特性を原理、原則とする

特殊戦術の体系化には、特殊戦術の本質的な特性を原理、原則として構築することが必要になる。ところで、特殊戦術の本質的な特性をとらえるには、各種目の構造や運動形態を簡素化するとともに、各種目の運動形態(または競争形態)的な特徴をとらえることである^{8),9)}。このような二つを視点にして、バスケットボールの特殊戦術の本質的な特性をとらえると、「対峙下において対峙を打破し(または打破しながら)シュートに結びつける連繋的な特殊戦術とそれらの防御の特殊戦術」になる。この本質的な特性は、ハンドボールやサッカー等のゴール型球技においても同様にとらえられる⁸⁾。

② 特殊戦術体系の構成要素となる特殊戦術のとりえ方

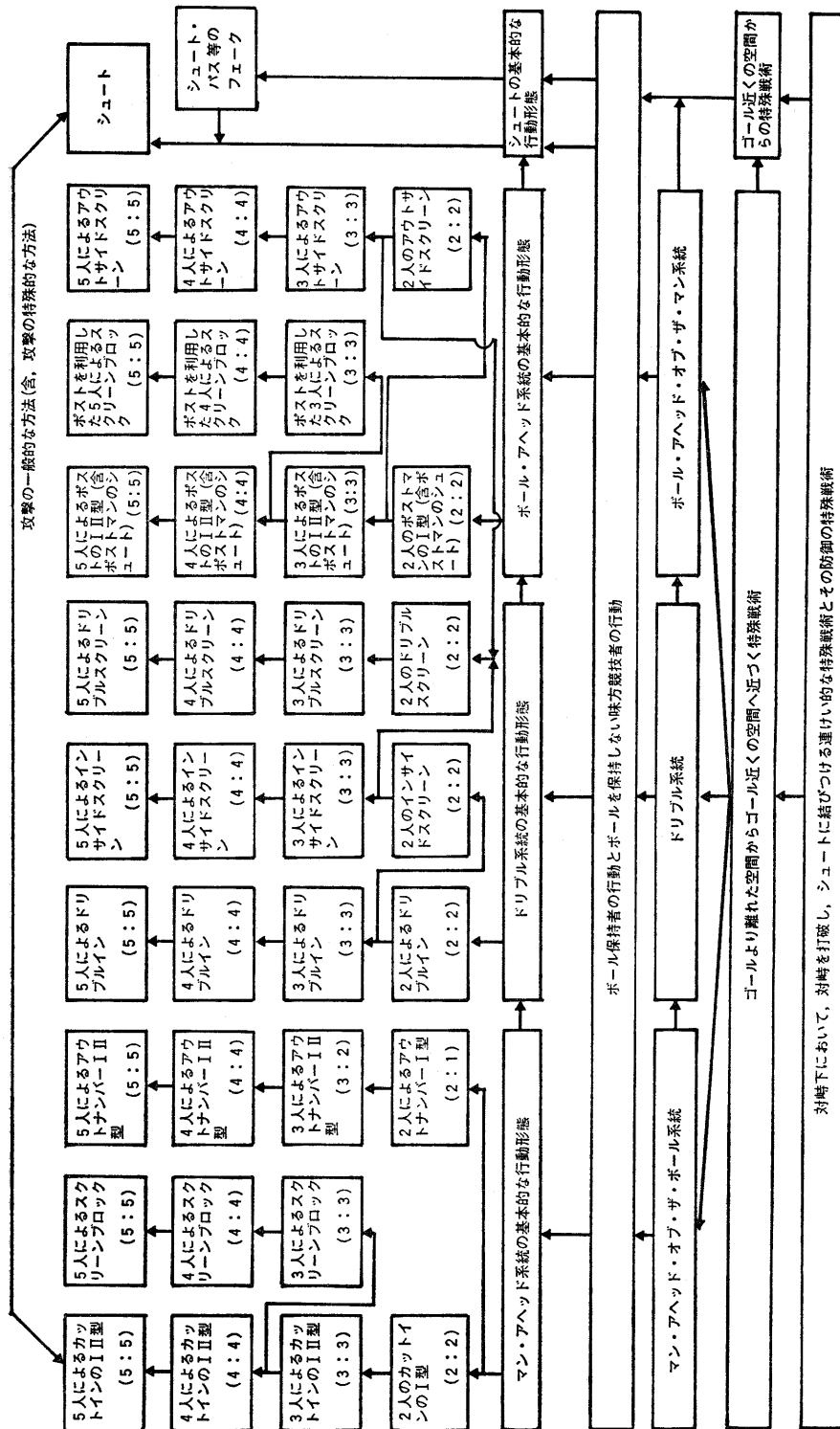
バスケットボールの特殊戦術は、一つのゴールを基点にした「ゴールからの距離の遠近や空間の広狭」を視点にしてとらえることができる。それによると、1) ゴールより離れた空間からゴール近くの空間へ近づく特殊戦術、2) ゴール近くの空間からの特殊戦術の二つになる。そして1)のゴールより離れた空間からゴール近くの空間へ近づく特殊戦術には、ボール保持者(またはボール操作者)とこれにかかわる味方競技者の両行動を視点にすると、そこにパス、ドリブルならびに攻撃側競技者の動きによって、攻撃の基本構造の異なる三つの基本的な

行動形態と特定な特殊戦術ならびにその防御の特殊戦術がとらえられる。これを攻撃についてみると、三つの基本的な行動形態には、1) マン・アヘッド・オブ・ザ・ボール (Man ahead of the ball 以下マン・アヘッドと略称)、系統の基本的な行動形態、2) ドリブル (Dribble) 系統の基本的な行動形態、3) ボール・アヘッド・オブ・ザ・マン (Ball ahead of the man 以下ボール・アヘッドと略称) 系統の基本的な行動形態に分類される¹⁰⁾。さらに三つの基本的な行動形態は、その上にカットイン、スクリーン等の特定な特殊戦術を系統的にとらえている。したがって、三つの基本的な行動形態とその上にとらえられる特定な特殊戦術によって統一された全体を「3系統¹⁰⁾」と呼称する。また、3系統の基本的な行動形態の上に位置づけられる特定な特殊戦術は、それぞれ2人による特定な特殊戦術から競技者の数量的な漸増によって5人による特定な特殊戦術まで系統的に構築されるので、それらを「系または系列¹⁰⁾」と呼称する。したがって、3系統とは、「三つの基本的な行動形態とその上に構築される特定な特殊戦術による系または系列」によって構成される。2) のゴール近くの空間からの特殊戦術にはシュート等がある。そして1)を2)へ結びつけることになる。これらのことは、ハンドボール、サッカー等のゴール型球技においても同様にとらえられる。

(2) バスケットボールの攻撃の特殊戦術体系図

図1は、バスケットボールの攻撃の特殊戦術体系図である。図の中の各系統の特定な特殊戦術の個々については説明を省略する。

各系統や各系統の特定な特殊戦術にみられる矢印は、試行の順次性による高度化を示す。また、すべての特殊戦術は、1) 相手方との対峙を打破し相手方を弱点のある状態にする、2) その状態をゴール近くの空間まで進める、3) 得点を試みるの三つの方法によって構成され、これを攻撃の一般的な方法¹¹⁾と呼称している。ただし攻撃側競技者が、ゴール近くの空間で相手方との対峙を打破したときには、前述の2)が除外されるので、1) 相手方との対峙を打破し相手方を弱点のある状態にする、3) 得点を試みるの二つの方法になる。また攻撃の一般的な方法のなか、1) 相手方との対峙を打破し相手方を弱点のある状態にすることが当初より除外された2対1、3対2の攻撃は、攻撃の特殊な方法と呼称する。したがって、攻撃の特殊な方法は一般的な方法に含まれることになる。つまり、攻撃の方法は、一般的な方法と特殊な方法の二つに分類されるが、試行上は一般的な方法の一つにまとめることもできる。攻撃の一般的な方法



は、すべての特定な特殊戦術に共通して試行されるので、攻撃の特殊戦術体系図では特殊な方法を含むとして特定な特殊戦術の上に明示した。

2) バレーボールの攻撃の特殊戦術体系

(1) バレーボールの攻撃の特殊戦術体系のとりえ方

① 本質的な特性を原理、原則にする

バレーボールの特殊戦術の本質的な特性は、同じ球技であるバスケットボールのそれと同様な手順によってとらえることができる。これによると、「対峙下において対峙を打破し（あるいは打破しながら）スパイク等に結びつける連繋的な特殊戦術とその防御の特殊戦術⁹⁾」になろう。つまり、バレーボールの特殊戦術の本質的な特性は、ボール操作者のパス、トスとこれにかかわる味方競技者の特定な特殊戦術の試行後のスパイク等による2対2の攻撃と防御になる。

② 特殊戦術体系の構成要素となる特殊戦術のとりえ方

バレーボールは、各チームが相手方コートへボールを打ち込む等をボールがコートの内外の床面等に落下するまで試行されるので、ボールは、ネットで区画された二つのコートを往復する。したがって、攻撃、防御の特殊戦術はネットを基点にしてとらえられる。すなわち、バレーボールの特殊戦術は、ボールが基本的には集団的な対峙のなかで味方コートから相手方コートへ、相手方コートから味方コートへと、コートを往復する過程のなかで試行されるので、バスケットボールと同様なとりえ方ができよう。これによると、バレーボールの特殊戦術は、バスケットボールのゴールに代るネットからの距離の遠近、空間の広狭によって、1) ネットより離れた空間からネット近くの空間へ近づく特殊戦術、2) ネット近くの空間からの特殊戦術の二つに分類される。そして、1) ネットより離れた空間からネット近くの空間へ近づく特殊戦術には、相手から直接妨害を受けることなくボールを移動できるので、パスを主体にしたボールの基本的な移動形態の他、二段法、三段法等の特定な特殊戦術がみられる。(相手方コートへボールを送り込むときには、対峙の打破は試行される)、2) ネット近くの空間からの特殊戦術には、ボール操作者とこれにかかわる味方競技者の両行動によって、一つの攻撃の基本的な行動形態と特定な特殊戦術ならびにそれらの防御の特殊戦術がとらえられる。これを攻撃についてみると、一つの基本的な行動形態はマン・アヘッドシステムの基本的な行動形態であり、そしてその上にセミ、クイック、時間差、オープン等の特定な特殊戦術をそれぞれ系統的にとらえている。

(2) バレーボールの攻撃の特殊戦術体系図

図2は、バレーボールの攻撃の特殊戦術体系図である。図のなかの特定な特殊戦術の個々についての説明は省略する。クイック系の特定な特殊戦術は、これに参加する味方競技者の漸増によって高度化を試行される。3人によるまでのセミ法を初めとする時間差法、平行法、オープン法の四つは、クイック系と同様その系列自体における人数の漸増的な参加により高度化を試行するとともに、これらにバック法を加えた五つは、他の方法として、他の系列の2人のクイック法を一つの基礎にして高度化を試行している。つまり二つの方法による高度化の試行である。このことは4人による時間差法を初めとするバック法までの4系列においても同様で、他の系列の3人によるクイック法を一つの基礎にして高度化を試行していることがみとめられる。そして2人より5人までによる攻撃側競技者による特定な特殊戦術のすべては、スパイク等に結びつけられ得点を追求している。

また、ネットより離れた空間からネット近くの空間へ近づく特殊戦術は、二、三の特定な特殊戦術を除きその多くはボールの基本的な移動形態になるので、これを攻撃の特殊な方法²⁾と呼称する。ネット近くの空間からの特殊戦術は、相手方との対峙を打破し相手方を弱点のある状態にして得点を試行するので、これを攻撃の一般的な方法¹²⁾と呼称し、特殊戦術体系図のなかでは特定な特殊戦術の上に明示した。

3) バスケットボールとバレーボールの攻撃の特殊戦術体系図にみられる類似性と特殊性

(1) 類似性と特殊性をとらえる視点

これらは、両種目の攻撃の特殊戦術体系の構成要素としてとらえられる各項目になろう、それらは、ゴール等のとりえ方、体系化のための原理等、特殊戦術のとりえ方、基本的な行動形態、特定な特殊戦術の展開等である。

(2) 両種目の攻撃の特殊戦術体系の類似性

① ゴール等のとりえ方

バレーボールは、たとえば攻撃側からみると相手方コートの全体をバスケットボールを初めとするゴール型球技のゴールである籠や門に類似させてとらえ、籠や門の前に1名ないし数名のゴールキーパーが位置し構えているというとりえ方もできよう。

② 体系化のための原理等

両種目の特殊戦術の本質的な特性を原理等にして構築している。

③ 特殊戦術のとりえ方

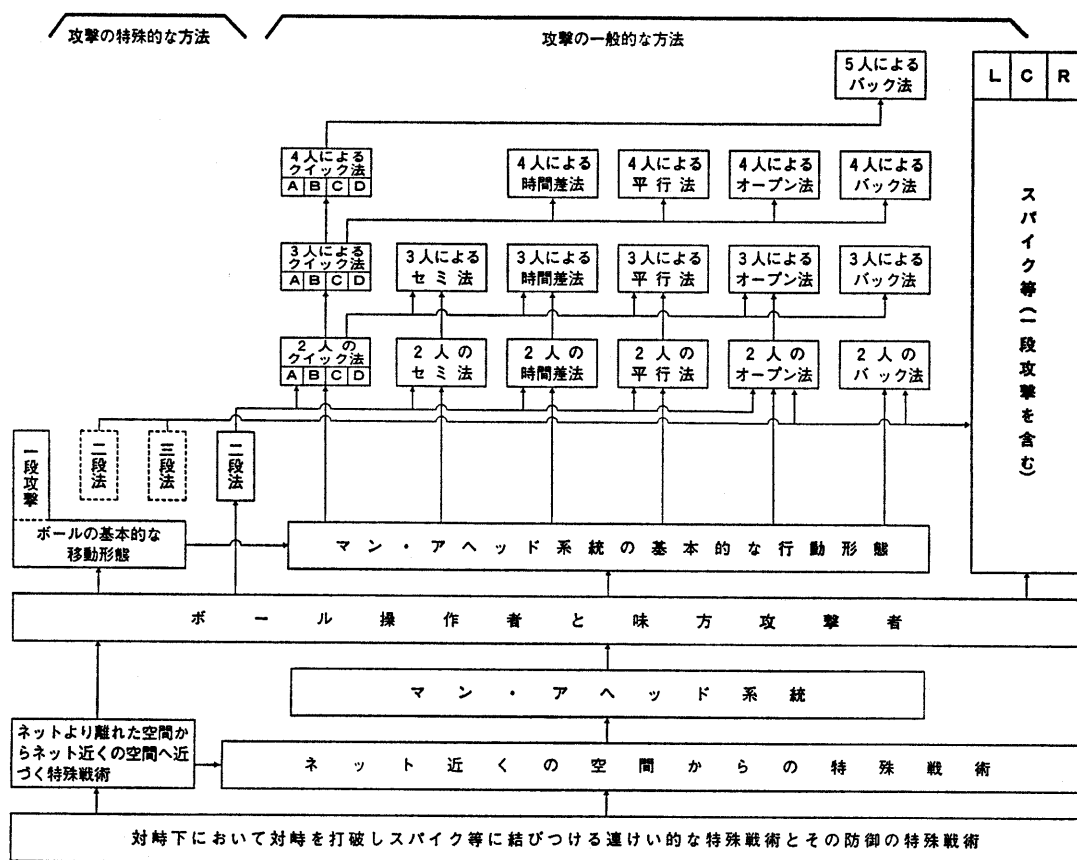


図2 パレーボールの攻撃の特殊戦術体系図 (1990, 中田, 稲垣, 宗内)

ゴールやネットを基点にし、ゴールやネットからの距離の遠近、空間の広狭によって特殊戦術を分類している。

④ 基本的な行動形態のとりえ方

ボール保持者（またはボール操作者）とこれにかかわる味方競技者の両行動によって基本的な行動形態をとらえている。

⑤ 特定な特殊戦術の展開

一般的な方法と特殊な方法に分類し、特定な特殊戦術を展開させている。

(3) 両種目の攻撃の特殊戦術体系の特殊性

① 基本的な行動形態の展開

両種目の特殊目標の達成の仕方や運動形態の異なることから、バスケットボールは走を基盤にしこれに跳を加えた種目としてとらえ、ゴールより離れた空間からゴール近くの空間へ近づく過程で、3系統の基本的な行動形態を展開している。パレーボールは跳の種目としてとら

えられ、ネット近くの側上方の空間のなかで、マン・アヘッド系統の基本的な行動形態を展開している。

② マン・アヘッド系統の基本的な行動形態にみられる「アヘッド¹²⁾」の仕方

バスケットボールは、ゴールへ連なる前方空間を効果的に利用するためのアヘッドであるに対し、パレーボールは、ネット近くの側上空間を効果的に利用するためのアヘッドになる。

③ 攻撃の一般的な方法の構成

バスケットボールは、三つの特定な特殊戦術（または方法）によって構成されるが、パレーボールは二つの特定な特殊戦術（または方法）により構成される。

④ 特殊戦術の高度化の構造

バスケットボールは、3系統の基本的な行動形態を基礎にし、各系列の特定な特殊戦術を味方競技者の漸増的な参加により高度化を試行している。パレーボールは、マン・アヘッド系統の基本的な行動形態を基礎にし、各

系列の特定な特殊戦術を味方競技者の漸増的な参加により高度化を試行する方法と、2人、3人によるクイック法を基礎にし味方競技者の漸増的な参加により高度化を試行する2つの方法がみられる。

⑤ 特定な特殊戦術の種類については省略する

4) 両種目の攻撃の特殊戦術体系にみられる特定な特殊戦術等の類似性と特殊性の関連性

① 両種目の特殊戦術、基本的な行動形態のとりえ方には類似性がみとめられるが、それに基づいて特定な特殊戦術を展開させる方法には、前方空間やネット近くの側上方の空間で個別的に試行される。このことは、類似してとらえられる基礎の上に各特殊戦術を特殊性として分化させ試行される関連性になる。

② 両種目の攻撃の一般的な方法のとりえ方には類似性がみとめられるが、一般的な方法の構成には特殊性がみとめられる。このことは、類似してとらえる攻撃の一般的な方法が、両種目の特殊目標や競争形態によって特定な特殊戦術の構成を異にして試行されている。したがって、類似してとらえられる基礎の上に特殊性として分化させ試行する関連性になる。

III. ま と め

小論は、球技を競技スポーツの一領域としてとらえ、球技の戦術の体系化を志向する一試論である。球技の概念の定義は、これまでみられない対峙的な競争形態を重視した競技の基本的な特性をとらえそれらより導いた。戦法は、戦略、戦術、作戦によって構成されるというG. スティラーの見解を支持しながら、筆者なりに球技の戦略、戦術、作戦の概念を定義した。それらのうち特に戦術については、おおざっぱに競争の指揮に関する理論としてとらえ、その実践を戦術行動としたので、戦術が理論か実践かについては筆者なりの結論が得られた。また、球技の一般戦術と特殊戦術については、一般戦術はすべての戦術に共通なもの、特殊戦術は個別種目の戦術になるが、それらの定義、対象、関連性を追求し、二つの戦術は、相互にかかわりをもちながら発展することを述べた。球技の戦術体系は、国内的にも国際的にも未だみられないが、球技の代表的な種目であるバスケットボールとバレーボールを選び、それらの攻撃の特殊戦術体系図を構築し、それらの一般化を志向するため類似性と特殊性を追求した。すなわち、両種目の特殊戦術体系図の構築については、両種目の特殊戦術の本質的な特性である「対峙下において対峙を打破しシュート（またはスパイク等）に結びつける連繋的な特殊戦術とそれらの防

御の特殊戦術」を原理、原則にし、その上にゴール（ネット）からの距離、空間の遠近広狭によって、特殊戦術を、1) ゴール（ネット）より離れた空間からゴール（ネット）近くの空間に近づく特殊戦術、2) ゴール（ネット）近くの空間の特殊戦術に分類し、前述のなかバスケットボールの1) バレーボールの2) については、ボール保持者（ボール操作者）とこれにかかわる味方競技者の両行動より、3系統と1系統の基本的な行動形態とその上に特定な特殊戦術をとらえ体系図を構築した。そして、両種目の攻撃の特殊戦術体系図にみられる基本的な行動形態や特定な特殊戦術の一般化を志向し、それらの類似性と特殊性並びに類似性と特殊性の関連性を追求した。すなわち両種目の攻撃の特殊戦術体系図にみられる基本的な行動形態や特定な特殊戦術等には、類似性を基礎に特殊性を分化させている関連性がみられる。このことは、球技という大枠のなかでとらえられるバスケットボールとバレーボールの類似性を基礎にし、その上にバスケットボールとバレーボールの固有の特殊戦術が、特殊性として分化され試行されているととらえられる。

文 献

- 1) Günther stiehler: Zur Taktik in den sportspielen in; Wissenschaftliche zeitschrift der Deutschen Hochschule für Körperkultur, 1958/59 Heft 1, S 61 ff.
- 2) 稲垣安二: スポーツ競争の戦術に関する一試論, 日本体育大学紀要, 9, 2-5 (1980).
- 3) 稲垣安二他: 球技に関する研究, 日本体育大学紀要, 8, 2-4 (1979).
- 4) G. スティラー, 谷釜, 稲垣訳: 球技戦術論 新体育, 6-12 月号, 新体育社 (1980).
- 5) 稲垣安二他: 球技の戦法の基本概念に関する一試論, 日本体育大学紀要, 14-2, 6-8 (1985).
- 6) 稲垣安二他: バスケットボールの攻撃の特殊戦術に関する研究, 日本体育大学紀要, 11, 101 (1982),
- 7) 稲垣安二: 球技の一般戦術と特殊戦術に関する一試論, 12, 17-19 (1983).
- 8) 稲垣安二: 球技の戦術体系の一考察, 日本体育大学紀要, 6, 13, 17, (1976).
- 9) 中田 茂他: バレーボールの攻撃における特殊戦術の体系化に関する研究, 日本体育大学紀要, 15-2, 84 (1986).
- 10) 稲垣安二: 球技の戦術体系に関する研究, 日本体育大学紀要, 11, 1-3 (1982).
- 11) 稲垣安二: 球技の戦術に関する一考察, 日本体育大学紀要, 10, 4-5 (1981).
- 12) 稲垣安二他: 球技の攻撃の戦術体系, 日本体育大学紀要, 17-2, 3-6 (1988).